INPUT インプット → OUTPUT アウトプット

シンガポール国際水週間（SIWW2010）への参加

資源循環研究部
研究員
谷口　智彦

イベントの概要

2010年６月28日から７月２日の５日間にわたり，シンガポールにおいて「第３回シンガポール国際水週間（Singapore International Water Week 2010）」が開催されました。SIWWは，2008年から年１回シンガポールで開催されている国際的な水のイベントで，国際会議や展示会，研究発表などが開かれ，今回は世界85カ国・地域から１万4000名以上の水関係者が参加しました。下水道機構では，下水道グローバルセンター（GCUS）のもと，国土交通省，日本サニテーション・コンソーシアム（JSC）ら13団体と共に，GCUSブース等での情報発信・情報収集を実施しました。

シンガポールと水事情

シンガポールの国土面積は，707km^{2}で東京23区とほぼ同じです。人口は約484万人で東京23区（約874万人）の約半分ですが，人口密度では世界第２位とのことです。空港から会場への道路や会場周辺は良く整備されており，大通りにはかならず街路樹が植えられ，緑が多く感じられる非常にきれいな街でした。一方，国土面積が狭く国内の水資源が不足しているため，水供給源確保を目的として①貯水池，②マレーシアからの輸入水，③neWater（下水再生水），④海水淡水化を「４つの蛇口」と称し，国を挙げて研究開発・施設建設を行っています。

水エキスポ

水エキスポ（展示会）では，JETROが中心となって日本パビリオンを設置し，17団体がブースを設けました。GCUSブースも日本パビリオンの中にあり，膜分離活性汚泥法，SPR工法模型の２つの模型のほか，各団体の技術紹介パネルを展示し，技術説明・資料配付を行いました。日本パビリオン以外でも，日本企業としては６団体が単独でブースを設けていました。

衛生ナレッジハブ・セミナー

GCUS，JSC，PUB（シンガポール公益企業庁：水資源を管理する機関）の共催で衛生問題解決に向けたセミナーが開かれました。

このセミナーを通じて，アジア太平洋地域の水関連ナレッジハブが連携強化・情報集約化することで，発展途上国の需要に応えることの重要性が確認されました。また，国土交通省と環境省の協力の下，日本が中心となって推進しているサニテーション分野のハブの展開に向けて，PUBと幅広い分野で連携していくことが確認されました。

オーチャード・ロード

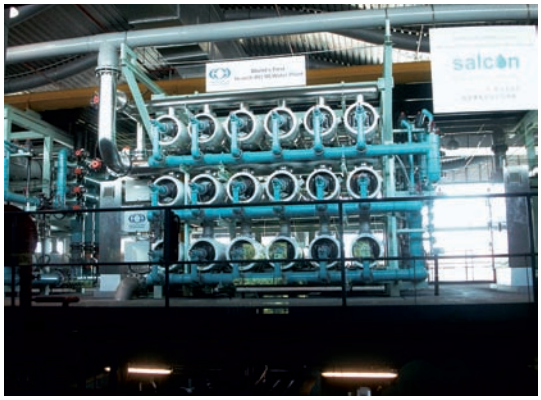
GCUSブースの様子

日本ビジネスフォーラム

会場は200席程度が用意されていましたが，立ち見が出るほど盛況でした。

国土交通省，経済産業省，厚生労働省，国際協力銀行，東京都などのパネリストから，海外ビジネス展開に向けた取り組みについて紹介がありました。国土交通省からは，日本企業の高い技術力の紹介，水ビジネスのネットワーキングや情報・知の拠点となるGCUSやJSCが昨年設立されたこと，また今後はシンガポールのウォーターハブのような拠点を日本にも設置し，調査研究や日本の技術のショーケースとすることを目指したいとのコメントがありました。

ビジターセンター入口



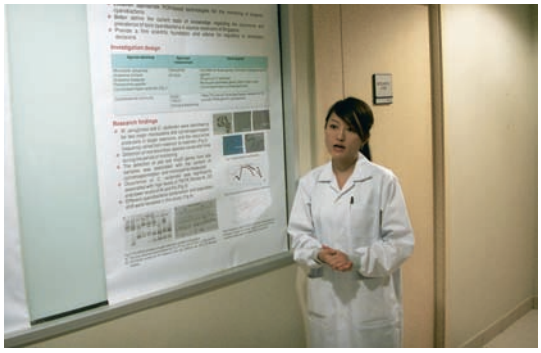
ビジターセンター展示の様子（RO膜設備）

newaterビジターセンターとWater Hub

newaterとは，下水処理水を再生した水のことです。ビジターセンターでは，下水再生水の国民への理解を深めるために，シンガポールの水問題への取り組みの歴史や，再生水がどのようにつくられるかについて，ビジュアル的にわかりやすく説明されていました。

ウォーターハブはPUBが所有する施設で，水に関する研究開発・研修・人や組織のネットワーキングの３つの事業を実施している施設です。海外企業や国内企業と多くの共同研究を行っており，この共同研究を通じて自国企業の海外進出への足がかりとすることを目的としているようです。

私にとっては，このような国際会議，国際展示会への参加は初めての経験でしたが，シンガポールの水事情や日本の水ビジネスへの取り組み等がわかり，有意義な出張となりました。



Water Hub職員による説明

Water Hub ガラス張りの研究室